

高齢者インフルエンザ予防接種説明書

1 インフルエンザとは

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こります。インフルエンザにかかった人が咳やくしゃみなどをすることにより、ウイルスが空気中に広がり、それを吸い込むことによって感染します。

典型的なインフルエンザの症状は、突然の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛などで、のどの痛み、咳、鼻水なども見られます。普通の風邪に比べて全身症状が強いのが特徴です。気管支炎や肺炎などを合併し、重症化することが多いのもインフルエンザの特徴です。

また、インフルエンザは流行が始まると、短期間に小児から高齢者まで膨大な数の人を巻き込むという点でも普通の風邪とは異なります。

2 インフルエンザ予防接種の有効性

予防接種を受けてからインフルエンザに対する抵抗がつくまでに、2週間程度かかり、その効果が十分に持続する期間は約5ヶ月とされています。

3 インフルエンザ予防接種の副反応について

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常2～3日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさがみられることもあります。通常2～3日のうちに治ります。また、接種後数日から2週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難が現れることがあります。

4 インフルエンザ予防接種の健康被害救済制度について

今回のインフルエンザ予防接種によって、万一健康被害を受けた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法による「医薬品副作用被害救済制度」に基づく救済の対象になります。対象とする給付は、医薬品を適正に使用したのにもかかわらず、副作用によって一定レベル以上の健康被害が生じた場合に、医療費等の諸給付を行うものです。給付の種類としては、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金、葬祭料があります。

5 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

インフルエンザの予防接種について、今回の通知を読み、必要性や副作用について理解しましょう。気にかかることがあれば、予防接種を受ける前に担当の医師や看護師、町の担当者に質問しましょう。十分に納得できない場合は、接種を受けないでください。

裏面もご覧ください

(2) 予防接種を受けることが適当でない人

- ① 明らかに発熱のある人(一般的に体温が37.5度以上)
- ② 重篤な急性疾患に罹っている人
- ③ 予防接種の接種液の成分によって、アナフィラキシーショックを起こしたことがある人
- ④ インフルエンザの予防接種で、二日以内に発熱及び重篤なアレルギーを疑う症状のあった人

(3) 予防接種を受ける際、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 前にインフルエンザの予防接種を受けた時、2日以内の発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常が見られた人
- ③ 今までにけいれんを起こしたことがある人
- ④ 今までに中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
- ⑤ インフルエンザ予防接種の成分又は鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことのある人

(4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ① 予防接種を受けた後30分間は、急な副作用が起こることがあります。医師(医療機関)とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。
- ② インフルエンザワクチンの副作用の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- ③ 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- ④ 接種当日はいつも通りの生活をしてかまいませんが、激しい運動は避けましょう。

○お問い合わせ

小鹿野町保健福祉センター

小鹿野町小鹿野300

TEL 75-0135

※町外の方はお住まいの市町村へ

お問い合わせください。